

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆24年度の介護給付費、過去最多の11兆円超 厚労省

・厚生労働省は2024年度の介護保険事業状況報告を発表。利用者の自己負担分を除いた給付費は前年度から3564億円(3.3%)増えて11兆1826億円となり、過去最多を更新。初めて11兆円を超えた。増加率は23年度(3.0%)とほぼ同じだった。介護保険制度が始まった00年度(11カ月分)の3.4倍となった。高齢化の進展で右肩上がりで増えている。

◆景気判断「緩やかに回復」維持 8月の月例報告、自然災害の影響注視

・政府は8月の月例経済報告で、国内の景気判断を「緩やかに回復している」で据え置いた。熊本地震や千葉豪雨などが重なり、中東混迷に加えて「自然災害の影響を注視する必要がある」とした。景気判断は24カ月連続で維持。住宅建設は前月の「弱含んでいる」から「総じて横ばいとなっている」と1年ぶりに判断変えた。企業収益も「改善している」と上方修正。

◆国債費最大36.6兆円、27年度概算要求 利払い費は16.5兆円

・財務省は2027年度予算の概算要求として、国債の元利払いにあてる国債費を過去最大の36兆6386億円とすると明らかにした。足元の金利上昇を反映して想定金利を3.8%と、26年度予算の3.0%から引き上げる。国債費のうち利払い費は16兆5888億円と過去最大を更新。財務省全体の要求額は38兆6948億円と、26年度当初予算に比べて5兆円強増。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆国交省の予算要求、インフラ予防保全に1兆円 交通空白の解消835億円

・国土交通省は2027年度予算の概算要求額を公表。一般会計に26年度当初予算比で44%増の計8兆7694億円を求める。上下水道、鉄道、河川などインフラの予防保全に34%増の1兆1591億円を盛り込んだ。新築住宅の価格高騰や空き家の増加に対応、中古住宅の流通活性化などに13%増の328億円を計上。中古物件の質を上げるためのリフォームを支援。

◆7月の国内建設受注額2%増 2カ月連続プラスも大型案件低調

・日本建設業連合会が発表した7月の国内建設受注額は、前年同月比2%増の1兆1245億円。単月でのプラスは2カ月連続。官公庁からの受注が好調だった一方で民間からの受注額は減り、増加は小幅に。民間からの受注額は5%減の8285億円。製造業は4%減の2130億円、非製造業は6%減の6154億円だった。

◆7月住宅展示場来場者、2カ月連続で全エリア前年割れ

・住宅展示場協議会と住宅生産振興財団は2026年7月の住宅展示場来場者組数を発表。7月の来場者組数は16万3801組(前年同月比9.0%減)で、前月よりも減少幅は縮小したものの、2カ月連続で前年同月を下回った。全8エリアが前年同月比でマイナスとなる状況も2カ月連続。4～7月の全国累計来場者組数は、80万8989組(同4.3%減)。

《 注目商品 》

■LIXIL、循環型素材採用の人工木デッキ

・再資源化が困難な廃プラスチックと廃木材を融合した独自技術の循環型素材「revia(レビア)」を採用した人工木デッキ。木を彫ったような凹凸による美しい陰影と不均一で心地いい木質が特長。カラーは、ライトブラウン、ダークブラウン、グレーの3色。



■DAIKEN、不燃性能とビス保持力を備えた壁下地材

・不燃性能とビス保持力を備えた壁下地材「不燃ダイライト複合板BK(壁下保くん)」を発売。非住宅分野では、内装制限や防火の観点から壁下地材にも不燃性能が求められるケースが増えている一方で、ビス保持力や施工性を備え、かつ安定的に調達できる下地材が求められている。



■耐荷重4.5t、実用性+デザイン性を備えたガーデンパン

・水生活製作所は、実用性とデザイン性を両立させた立水栓用ガーデンパン「ラウンドパン 深型」を発売。外側側面はふくらみのある曲線で内側底面は排水口に向かってゆるやかに傾斜。さらに下部に立ち上がりをつけ、デザイン性・実用性・清掃性・メンテナンス性を備えた。

